

が3つと、また辺長の条件が1つと合計4つの条件が満足されなければならない。このことを利用してより確実性のある値を求めようとしたのである。

辺長計算を行い、両側スパンのコンクリート面上で測定した実測長と計算値とを比較したとき、その差は、4.879mmとなった。この値は、実際に要求された精度を充分満足するものである。

6. 水準測量

約300m離れた2点間の水準差を求めることは、普通的水準測量では不可能なことである。それは、標尺の目盛を正確に読みとることはできないし、海面からのぼるかげろうにわざわざされて、また両標の中間に器械を据



写真-7

付けることができないために生ずる器械誤差のために、とうてい正確な測定ができないのである。したがって、この場合には、これらの影響を消去できるような方法を考えねばならない。これを渡海水準測量とよんでいる。使用する器械はツァイス製1等水準儀(写真-7)、視準する標尺

はインパール板を張ったりツァイス製の標尺、これを両

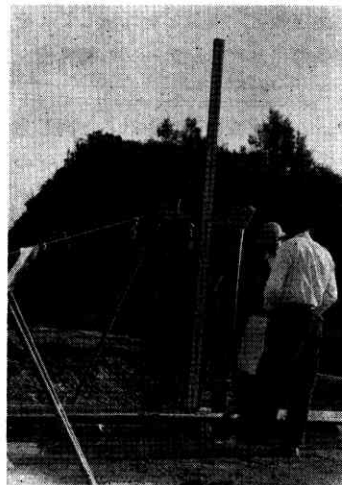


写真-8

岸測定点に写真-3のように充分頭丈に立てるのである。

気象条件の影響をのぞくため片側から約200回ずつの測定を行い、その平均をとった。約300m離れた点の高低差について両岸から観測した値の差は1/100~3/100mm(2地点について行った)

である。

7. むすび

この橋はすでに完成している。1でのべたように、特にスパン長の正確さが要求されている反面、橋梁製作上にも正確さが必要である。このため、橋梁製作に用いたスチールテープは、すべてスパン測量に用いたテープと同じ場所で、同じ方法で比較してその特性値を求めて使用された。

これを含む諸般の慎重な作業計画によって、世界第3位を誇る大橋梁がすでになんらの事故もなく完成していることは、誠によろこばしいことである。

この貴重な測量作業に従事する機会を与えられた恩師名誉教授田中豊博士のご好意に深く謝意を表する次第である。(1955. 9. 7)

正誤表 (10月号)

頁	段	行	種別	正	誤
目次			表題	ゲルマニウムの精製	ゲルマニウムの製精
1	右	下5	本文	Cl-は0.5353 E/kg	Cl-は0.4590 E/Kg
2	左		第2表	0.00003 (Agの項)	0.0003
				0.00002 (Auの項)	0.0002
3	右	下15	本文	RHCO ₃	PHCO ₃
9	左	最下	凸版	RCOH+CH ₃ - $\overset{ }{\underset{ }{C}}$ -CH ₂ OH	RCOH+CH ₂ - $\overset{ }{\underset{ }{C}}$ -CH ₂ OH
10	左	18		C ₆ H ₅ CH(OH)CH(NO ₂)CH ₃	C ₆ H ₅ CH(OH)CH(NO ₂)CH ₃
11	左	下1	"	遅延回路	遅回路
"	右	上8	"	遅回路に	遅に
12	右	下3	"	# 2端子	2端子
15			第1図	還元温度(1図のC)	還元温
21	"	下3	本文	しかもその	しかも
22	左		第1図	曲線	曲協
"	右	下10	本文	酸化状態によって	酸化状態って
23	左	下23	"	T ₁	T ₂
"	"	下20	"	T ₂	T ₁
"	右	上4	"	計数することに	計数すことに
"	"	上5	"	端子1には、T ₂ に入る	端子1には、T ₁ に入る
24			通し頁	260	(脱落)
"			奥付	9月25日	8月25日

次号予告 (12月号)

研究解説		
金相電子顕微鏡	谷 安 正	
β-アルミ青銅の恒温変態中に表われる組織について	西川 精一 片桐 文江	
クロームメッキ面	松永 正久 萩生田善明 鈴木 登	
海外事情		
カナダの原子力事情	末岡 清市	
研究速報		
活性炭による沃素の吸着の速度	福田 義民 河添邦太郎	
——接触濾過法による基礎理論——	趙 容 達	
ハロゲン化銀の焼出しコロイド状銀粒子の電子顕微鏡観察	神山賢太郎 鈴木 登	
ゼラチン硬膜チューブの膨潤度および軟化度の測定	吉永 忠司 吉川 新一 勝又 重則	